

「Thanks 10 years !」



悲願の初優勝！！ Congratulations ! #45



自己最高位！ #7



3回目のポディウム #138



またまた張り切り過ぎましたね #29



全車完走 #150

2017年のK 耐久東海シリーズも早くも最終戦を迎えた。現行のシリーズスタイルになって10周年、本当に有難うございます。

そしていよいよシーズン最終戦、タイトルが決定しているクラスもあるが、まだまだ熱戦が続くクラスも。タイトル争いもいよいよ決着の時を迎える。朝は今季一番の冬将軍とはいえ、日差しは暖かな三河湾のそれ。この陽光に照らされるチームはどこか。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

NN はは近年になってビギナー部門が設定されたクラスだが、NN クラスある意味最も進化したクラスと言ってもよい。2011年にKNNとして始まったノーマルクラス、最初のレースは1'10.101が最速タイム。7シーズン後の2017年にはトップクラスのタイム的にはほぼ同じものの（一部は10秒切りも出現）、ビギナーでもコンスタントに10秒前半まで走るところまで来ている。ちなみにNN-E（エキスパート）クラスだと08秒台中盤を記録する。

例えば同じようにOPクラスもタイムアップしているが、オープンターボクラスの1.5秒とNAノーマルの1.5秒では重さも違う。ノーマルカーならではの走らせ方という奥の深いクラス、そしてここからステップアップをしてほしいクラスでもある。

無敗4連勝でチャンピオンを決定させた#149「K4EP アルト 149R」はステップアップとしてNN-Eへチャレンジ。参加は5台だがどこが勝ってもおかしくない。さあ最高のステージをはじめようか。

■予選

予選トップは#29「スーパーアルトバイエル」は1'09.702、「#29だからウイナーなのか」と訊くのを忘れたが、一気にタイムアップで10秒切り！！クラストップを獲得、NN-Eクラスにも負けないタイムを刻んできた。気になるのはアンダータイム規定だが…

予選2番手は#45「インフィニティーアルト」1'11.905、こちらもタイムアップで自己最高位を記録。狙うは初優勝。

予選3番手#7「SevanRacing アルト」1'12.758、しぶとさが魅力のこのチームもタイムアップ。予選4番手#138「ガレージタナカPMUアルト」1'14.141、こちらもタイムアップ。予選5番手#150「SZK-150アルト」1'14.462。第4戦では3位表彰台で上り調子。

■序盤

第4戦まで無敗だった#149「K4EP アルト 149R」がNN-Eへチャレンジしたことで、より混戦が予想されたが、やはりその通り。#29「スーパーアルトバイエル」を先頭に、#138「ガレージタナカPMUアルト」、#7「SevanRacing アルト」、#150「SZK-150アルト」の順に同一周回でバトル。#45「インフィニティーアルト」は早めのピットインで先手を打つ。

■中盤

中盤のトップ争いは#150「SZK-150アルト」と#7「SevanRacing アルト」が同一周回。#45「インフィニティーアルト」、#29「スーパーアルトバイエル」、#138「ガレージタナカPMUアルト」の3台も1周回差と大激戦。残りピットストップの関係も絡んでのチーム間での駆け引きもありそうだ。

#29「スーパーアルトバイエル」にアンダータイムが見られるようだ、現行ルールではアンダータイムは減算の対象となるため、気になるポイント。

Race Report



■終盤

やはり混戦、ゴールまで残り1時間。この時点でのトップは#7「SevanRacing アルト」、実力発揮で初のトップ走行、このまま上位キープを続けたい。

2位は#138「ガレージタナカ PMU アルト」、これまでの自己最高位は2位。もう一つあげられるか。

3位#45「インフィニティーアルト」。こちら自己最高位は2位、あと一つあげたいぞ。4位#29「スーパーアルトバイエル」、5位#150「SZK-150 アルト」の順。

しかしながらトップから5位までの周回数の差は4周、トップ3台は1周以内という接戦。



■最終結果

最終盤でトップに躍り出た#45「インフィニティーアルト」がそのまま振り切って悲願の初優勝！！2位は#7「SevanRacing アルト」でこちらも自己最高位を更新する2位表彰台。3位は#138「ガレージタナカ PMU アルト」、シーズン3回目の表彰台を獲得。

ちなみに#138「ガレージタナカ PMU アルト」はアンダータイム規定で3週の減算となっており、そうでなかった場合は初優勝の栄冠はこちらになっていた可能性も…

4位#29「スーパーアルトバイエル」は6周減算、第4戦でも15周減となっており、今回もちっとハッスルし過ぎましたね。5位#150「SZK-150 アルト」は終盤コースアウトなどもあったが、無事チェッカーで全車完走。



ビギナークラス



初優勝です！！





■総評

念願の初優勝を決めた#45「インフィニティーアルト」、女性ドライバー主体のチーム、なおかつ GT 耐久シリーズでもマシンを走らせるという、忙しい中での初勝利本当におめでとうございます。女性ドライバーの活躍は、現在のモータースポーツ業界の中でも注目のポイントで、グラスルーツイベントからその潮流をもっと起こしていくべきでその意味でも大きな意義のあるものと思います。タイトルは第4戦で#149「K4EPアルト149R」が無傷の4連勝でシリーズチャンピオン確定だが、#45「インフィニティーアルト」も3P差のランキング2位というところまで肉迫、実力を存分に発揮というところ。

気になるのは、今回もアンダータイム規定に引っかかったのが2台・延べ9周回という点。今回も順位に関係するほどの減算があったのは残念、ルールは守ってもらいたいもの。

NNクラスやそこから派生したビギナー・エキスパートの κατηγοリーは近年設定されたものだが、来季以降もここからモータースポーツに入り、上のクラスや、他のカテゴリーにステップアップしていく若者たちの活躍に期待して10年間の感謝としたい。



シリーズ表彰 ビギナークラス



チャンピオンは今回 NN-E へ挑戦

「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

NN-Eはノーマルクラスの上級者たちのバトル。第4戦で現在ランキングトップの#5「Baden PROJECT K アルト」が少し有利にたったところが、この最終戦にはランク2位・3位の2チームが欠場。これでタイトルは確定。

一方で、新規参加チームの姿も。#149は今季のNN-Bクラスチャンピオン、腕試しとばかりにエキスパートにチャレンジ。

#13は今年の学生さんたちで組まれたAUTチーム。そして”オールドルーキー”#108の走りっぷりはどうか。全5チームが熱いバトルを繰り広げる。



初参加で初優勝！ #108

■予選

予選韋駄天の#55のいない予選セッション。今回のトップは#5「Baden PROJECT K アルト」1'08.925、とうとう08秒台に入れてきた！さすがチャンピオンチーム、このまま優勝でタイトルに華を添えたい。

2位は#13「愛知工科大学 DXL1号」1'09.371、AUT (Aichi University of Technology) チームは毎年実践の場として学生さんたちがチームを組んで出場、現場を監督する先生方の尽力もあり、好成績を収めている。こういった取り組みが増えるのはモータースポーツ界にとっても重要。今年の締めくくりとして悔いのない走りを期待したい。

3位#149「K4EP アルト 149R」1'10.653、今季無敗でNN-Bクラスのタイトルを決めたチームが、腕試しとばかりに最終戦にNN-Eにチャレンジ、思いっきり走っていきたくところ。

4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」は1'10.653、前回より1秒近くタイムアップ、みんな速くなってきている。

5位初参加の#108「オールドルーキーアルト」は1'16.713まずは小手調べと言ったところか。

■序盤

最初のスティントからトップに立ったのは、なんと初参加の#108「オールドルーキーアルト」1'08.670というクラス最速タイムを叩き出して先頭を行く。

2位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、3位はチャンピオン#5「Baden PROJECT K アルト」、開始5分早々でスピンをしてヒヤリとしたが、その後は立て直して戦線復帰。

4位#13「愛知工科大学 DXL1号」、5位#149「K4EP アルト 149R」。まだまだこのあたりではギャップは殆ど無い。

■中盤

中盤でもまだまだトップを張る#108「オールドルーキーアルト」、いやはやアップレ。しかし、他のエキスパートたちも手を拱いているわけではなく、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」が同一周回で追う。

3番手、こちらも大健闘の#149「K4EP アルト 149R」、エキスパートクラスルーキーとしては、今のところ合格点以上の走りを披露。

4番手#13「愛知工科大学 DXL1号」、スピンなどもあり、現状この位置だが、後半に向けて順位をあげてくることが予想される。

5位#5「Baden PROJECT K アルト」、心配なのはこのチームで思ったほどペースが上がらない。まだ序盤から中盤なのでここからの巻き返しを期待したい。



2位表彰台 #13



NN-Eでも3位、自信になったはず #149



またしても表彰台には届かず #6



Race Report

■終盤

さあ残り1時間、トップはまだまだ突っ走る#108「オールドルーキーアルト」、同一周回で追いかける#149「K4EP アルト 149R」と#13「愛知工科大学 DXL1 号」が2位、3位につける。

さらに1Lapの差で#6「ロッキーレーシング DXL アルト」が4位。表彰台争いも目が離せない。そして少し差が開いて#5「Baden PROJECT K アルト」が5位。特筆すべきは#108「オールドルーキーアルト」、途中スピンなどもあったがここまでは文句ナシのトップ走行。他のカテゴリーで活躍している選手たちは何に乗っても速いということか。もちろん狙うは初参加で初優勝。

■最終結果

結局最後は差を広げる形でチェッカー。#108「オールドルーキーアルト」が初参加で初優勝を飾った。最速タイムはレース終盤に記録した1'08.535！ 他を寄せ付けない速さを見せた。

2位は#13「愛知工科大学 DXL1 号」が入り、表彰台ゲット。3位は#149「K4EP アルト 149R」、ステップアップのレースで嬉しいポディウムに。

4位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、5位は終盤にもスピンを喫するなど今ひとつリズムに乗れなかったか#5「Baden PROJECT K アルト」。それでもしっかりと完走するあたりはさすが今年のチャンピオン。



初タイトルおめでとう！！ #5



エキスパートクラス



初参加&初優勝&初オイル！！！！



やりました～！！

Race Report

GT-CAR PRODUCE



■総評

今回の主役は言うまでもなく#108「オールドルーキーアルト」だったが、それ以外にも AUT 学生チーム、NN-B チャンピオンのステップアップなど見どころの多い一戦となった。

がっぷり組んでのタイトル争いは見れなかったが、苦しい中でもしっかりと完走まで持ってきた#5「Baden PROJECT K アルト」や#6「ロッキーレーシング DXL アルト」などエキスパート常連チームも、さすがというところを見せてくれた。

第4戦ではハンディのある#55ビートが、4時間戦という地の利を活かしての勝利など、マシンポテンシャルだけではなく”耐久走り”の真骨頂を披露するなど、内容の濃い10年目のシーズンとなった。



シリーズ表彰エキスパートクラス



年間チャンピオンエキスパートクラス





やはり強かった！ V7は前人未到 #25

NCクラス（軽NAのクロードクラス）

最激戦クラスのひとつがここ、何しろ4戦までを終えて同点、ともに2勝ずつ。4時間戦を制した#66「VICONTIトゥディ」がランキング上は1位となっているが、実力は五分。ここ数年跳ね返されてきた絶対王者の壁を崩す最大のチャンスが訪れた。一方6年連続でタイトルを死守する絶対王者も、今年は陰りが見えるか、シリーズ最大の政権交代、新たな王朝の誕生を目にする瞬間がやってきたか。

■予選

予選トップは、伏兵（といつては失礼だが）、#18「愛知工科大学アルトスペシャル」1'06.901がクラス唯一の06秒台に入れて堂々のトップタイムを記録。2位#66「VICONTIトゥディ」1'07.284。連続トップタイムは途切れたが好調は維持。気になるのは20キロのウエイトか。3位#225「ぐっちちプリントアートゥディ」1'07.708、2大巨頭の影に隠れがちだが、このところググッと速くなっているのはこのチーム。まずは一方を崩したい。4位#25「アカミネコマル2トゥディ」1'08.627、予選はいつものパターン。王者のリズムに持ち込めば前人未到のV7に近づく。5位初参加#555「ないとエッセ」、L235Sのエッセを持ち込んできたこのチーム。タイムは1'11.885、まずは無難な滑り出しを狙う。



若い力は無限大 #18

■序盤

タイトル決定戦のBiG2のバトルに、#18「愛知工科大学アルトスペシャル」が絡んでのトップ争い。06秒台を序盤から記録して飛ばす#18「愛知工科大学アルトスペシャル」と#66「VICONTIトゥディ」。粘り強い走りでのぐ#25「アカミネコマル2トゥディ」が上位グループを形成し、序盤戦を行く。第2グループは#225「ぐっちちプリントアートゥディ」と#555「ないとエッセ」だが、#225「ぐっちち」も07秒台の前半に入れ速さを見せる。#555「ないとエッセ」も自身のペースが掴めてきたか、予選タイムを上回ってきた。



4番バッターの座も近いのか #225



いざ決戦



予選から火花が散る！！

Race Report

■中盤

トップを行く#18「愛知工科大学アルトスペシャル」がコースアウト、これでトップは#25「アカミネコマル 2トゥディ」まだこの時点でも最速 Lap は 07 秒台前半、速さではライバル 2 台とは差があるようだ。

2位に下がった#18「愛知工科大学アルトスペシャル」だが、すぐまたトップを奪い返そうと追ってくる。

3位#66「VISCONTIトゥディ」、#25の「ネコ」だけを見るタイトル争いのなかに#18がいることでリズムが狂うのか、少しずつ離され始める。

4位まずまず好調な#225「ぐっちっちプリントアーツトゥディ」、上位の一角に食い込めるか、ここからが正念場。

5位#555「ないとエッセ」も下位ではあるが、自身のレースを進めており、規定周回数はクリアできそうだ。



リズムが狂ったか #66

■終盤

#25「アカミネコマル 2トゥディ」と#225「ぐっちっちプリントアーツトゥディ」の同クラスマシン同士が接触、ヒヤッとすがどちらもレース続行。#25「アカミネコマル 2トゥディ」は優勝をかけて最後のスパートに入る。この時点での敵は#18「愛知工科大学アルトスペシャル」となっている。3位#225「ぐっちっちプリントアーツトゥディ」

4位#66「VISCONTIトゥディ」思うようなペースで走れず、トップから離されてしまった、ウエイトの影響もあるのか…最後の逆転にかける。

5位#555「ないとエッセ」、規定周回数はクリアできそうだ、あとは終盤のミスやトラブルは防ぎたい。



初参加で見事完走 #555



NC クラス



先生が一番ドキドキ！

王座を守った！！





■最終結果

#18「愛知工科大学アルトスペシャル」という手強い挑戦者が現れて、いつもとは違うレース展開になったが、そこは王者の力を見せつけて#25「アカミネコマル2トゥディ」が優勝、とはいえその差は6秒半！薄氷の勝利だった。これで前人未到のV7を達成。

2位はこのクラスに初挑戦となった#18「愛知工科大学アルトスペシャル」、王者をああと一歩まで追い詰めた走りだった。

3位は2強の一角を崩した#225「ぐっちっちプリントアーツトゥディ」がポディウム。4位はリズムに乗れなかったか#66「VISCONTIトゥディ」、「うーん特に悪いところはなかったと思うけど・・・」と代表も悔しそうに語った。

5位#555「ないとエッセ」、規定周回数は余裕を持ってクリア、見事完走。

■総評

史上最大の決戦は終わった。念願の王朝打倒は叶わず、#25「アカミネコマル2トゥディ」がV7を達成したが、決してその勝利は盤石ではなかった。若い力であるAUTチームがあと一歩のところまで迫り、永遠のライバル、ヴィスコンティ朝もシリーズを通して玉座の間までその刃を向けた。そして#225もその速さを増してきており侮れない存在となった。

絶対王朝の時代がいつまで続くかはわからない、しかし大きな壁を超えることが次への一歩へのモチベーションになることも事実。

守るもの、超えてゆこうとするもの、ともに切磋琢磨して行くことを切に願う。



シリーズ表彰 NCクラス





2勝ながら 惜しくも王座に届かず #28



お見事!! V3 #330



こちらビッグ4の1台 #69



逆転を狙ったが最終戦は5位 #93

TCクラス(軽過給機のクローズド)

NCが史上最大の決戦ならば、このTCは史上最大の激戦。15Pという差の中にトップ4チームが並び、文字通り最終決戦。特に上位2チーム#330「DIXCELコンパーノミラ」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」はその差なんと1P!

ともに1勝つつを上げているが、2勝目を上げればその時点でタイトルという目算が成り立つが…はたしてどうか。注目のトップ4に加え久々出場ナルミチームの2号車など総勢7チームが参加。

■予選

今回の予選トップも#330「DIXCELコンパーノミラ」1'05.522、現在ランキングトップ。クラス唯一の05秒台をマーク、このまま一気に決めにきたぞ。

2位#28「KHK VIVIO」1'06.491、現在ランキングは3位、トップとの差は7P、密かに逆転タイトルへの闘志を燃やす。

3位#82「東海☆麗神具 KTM カプチーノ」1'07.384、前回の予選は本調子ではなかったようだが、今回は予選から好調。

4位#69「モモヤマレーシングアルト」1'07.696、4時間戦で優勝30P獲得で、一気にトップ4の一角に食い込んできた、ここからタイトルとなれば、史上最大の下克上となる。5位#17「蒼い亀・初見アルトワークス」1'10.734、久々参加ナルミチームの2号車メインカーの復活は少し先とのことだが、SOHCで奮闘。テーマソングはやはりプロコル・ハルムですね。

6位#24「そのまんまのヴィヴィオ」1'16.405、予選タイムは記録したもののハブが不調らしく、ピットスタートを選択。7位#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'21.917、ランキング2位から逆転を狙うチームに暗雲か。最下位からの逆転があればこれも史上最大級。

■序盤

まずトップキープは#330「DIXCELコンパーノミラ」、気が早いですが優勝すれば文句なしにタイトル。2位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、予選は少し苦しいかと思ったが、ここまではまずまず、しかし逆転には#330の前でゴールすることが絶対条件。

3位は不気味に狙う#28「KHK VIVIO」がつける、このチームの場合は優勝はもちろんだが、他チームの動向も左右する。まずは自分たちのレースをして勝ち切るという姿勢だ。4位#69「モモヤマレーシングアルト」、こちらも他チームの動向に左右されるため、まずは勝利が絶対に必要。以上が激戦のトップ4の動向。

5位#17「蒼い亀・初見アルトワークス」、序盤まずまずだったのだが、1時間すぎの時点でS時で横転。一瞬ヒヤッとしたが、ドライバーは無傷、マシンの損傷もさほどではなく各部のチェックをした後戦列に復帰。

#24「そのまんまのヴィヴィオ」は1時間の時点でもピットに入ったまま、なんとチームのファクトリーのある岡崎まで部品を取りに行っているという。道中は安全運転にはくれぐれも気をつけて欲しい

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤は#330「DIXCEL コンパノミラ」と#28「KHK VIVIO」のバトル。先行する#330 ミラは折り返し時点で 69Lap を走行、ここまでの最速タイムは 1'05.164、追いかける#28 ヴィヴィオは1周回差の 68Lap、こちらの最速タイムは 1'05.322、わずかに#330 ミラ有利か。

3位は#82「東海☆麗神具 KTM カプチャーノ」、65Lap、4位#69「モモヤマレーシングアルト」、モモヤマ少し伸びないか、逆転タイトルが遠のく。

5位#93「藤枝マリンダイビングアルト」62Lap、こちらもこのままでは厳しくなってくる。

6位コースアウトから復活した#17「蒼い亀・初見アルトワークス」は 41Lap、規定周回数クリアに向けて奮闘。

7位#24「そのまんまのヴィヴィオ」、レース折り返しを迎えようとする頃、マシン復旧が叶い、コースに飛び出していく。規定上の完走は難しいだろうが、このまま無事に最後まで走ってほしい。

■終盤

長かった今シーズンも、残りは一時間、どんな結末が待っているのか。トップは#330「DIXCEL コンパノミラ」、逃げ切れればチャンピオン。2位#28「KHK VIVIO」、逆転はあるか。

3位#69「モモヤマレーシングアルト」、少し離れた。逆転は厳しくなってきた。

4位#82「東海☆麗神具 KTM カプチャーノ」初表題を狙う。5位#93「藤枝マリンダイビングアルト」、こちらも逆転は厳しくなってきたか。

6位#17「蒼い亀・初見アルトワークス」完走はクリアできそうだ。7位#24「そのまんまのヴィヴィオ」06秒台に入れて、最後まで全力疾走。



カプで奮戦 4位 #82



色々ありましたが見事完走 #17



こちらも色々ありました #24



TC クラス



■最終結果

最後の最後にトップチェッカーを受けたのは#28「KHK VIVIO」、2位とは30秒強の差で最終戦を勝利で飾った。これでシーズン2勝目で20Pプラス。

2位は#330「DIXCEL コンパーノミラ」、2位15ポイント獲得ということは…

3位#69「モモヤマレーシングアルト」、4位#93「藤枝マリンダイビングアルト」。ビッグ4が4位までにそれぞれ入賞、気になるポイント集計は後でしましょう。

5位#82「東海☆麗神具 KTM カプチャーノ」、なかなか上位勢の壁は崩せないか、しかしFRのカブで奮闘。

6位#17「蒼い亀・初見アルトワークス」、久しぶりの出場で横転などもあって大変だったが、見事完走。7位#24「そのまんまのヴィヴィオ」、ある意味一番走ったのはこのチーム!? とにかくお疲れ様でした。

■総評

史上最大の混戦のシーズン、優勝した#28「KHK VIVIO」は87P、2位に入った#330「DIXCEL コンパーノミラ」は89P、#93「藤枝マリンダイビングアルト」は83P。見事決着#330 RACIN FAN チームが3連覇を飾った。

2位はシーズンで唯一2勝を挙げたが2P及ばなかった#28 East Field Racing、3位は#93 藤枝マリンダイビング、4位#69 モモヤマレーシングというビッグ4となった。

新規格ハンディがなくなってどうなるかと思ったシーズンだったが、レース巧者の#330「DIXCEL コンパーノミラ」が上手くまとめてV3、流石です。惜しかったのは#28「KHK VIVIO」、第4戦でのペナルティがなければ(ピットストップと1周減算)#330を上まわってたかも…いや仮定の話はやめよう、シーズンを通して素晴らしい走りだったのは確かなのだから。



シリーズ表彰 TC クラス



復活!! 今季初勝利! #23



PP 発進から 2 位 #19



チャンピオンは 3 位フィニッシュ #38



久しぶりに暴れてもらえましたか #32



いい感じで仕上がってきました #448

OPクラス (軽NAおよびターボのオープンクラス)

すでにタイトルは第4戦で#38「デモリッションエグゼ」が決めているが、ターボ車同士の争いにも注目。念願の初優勝を遂げた#91「BRP★アルトバンターボ」に対し、速さでは文句ないがいささかトラブルも多い#23「Team Jatsun アルト」という構図。#23「Team Jatsun アルト」は今シーズンまだ勝利がない、その分しぶとく走るようにはなってきた、ここは一つ派手にぶっちぎりの勝利を狙う。今回はその3チームに加え、#448「スピアヘッドプレオ」、久々の出場となる#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」が参戦。

■予選

予選トップは、#91「BRP★アルトバンターボ」1'03.756、2戦連続総合PP、速さは一級品。2番手#23「Team Jatsun アルト」が1'03.805、速さは譲れないとばかり、0.049秒差のタイムで横に並ぶ。激速フロントローには及ばないが2列目もOPクラスがつける、3番手#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」1'04.678、久しぶりの出場ながら、さすがの好タイム。4番手#38「デモリッションエグゼトウディ」が1'05.160、20キロのウエイトを積んだNAがこのタイム、いやはや脱帽。5位#448「スピアヘッドプレオ」1'08.381、プライベートの星、前回出場時はスタートできずに悔しい思いをしたが、今回はどうか。

■序盤

ポンドカータイプのパレードカーにひかれてローリングスタート。最序盤こそ#91「BRP★アルトバンターボ」がでるが、その後はピット戦略も絡んで順位は変動。#23「Team Jatsun アルト」と#38「デモリッションエグゼトウディ」は早めのピットイン、その間に#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」がトップに立つ、久しぶりのトップ走行だ。#91「BRP★アルトバンターボ」もきっちりルーティンワーク。前回スタートできなかった#448「スピアヘッドプレオ」、予選タイムを上回りなかなか好調。チーム関係者もまずは一安心といったところか。

■中盤

中盤は他クラスのアクシデントからSCランとなりピットは混雑。トップは#23「Team Jatsun アルト」と。それに#38「デモリッションエグゼトウディ」が続く。#448「スピアヘッドプレオ」もしっかりした走りについていく。#91「BRP★アルトバンターボ」もピットインで一旦下がるが、これは作戦のウチ。トラブルが出る時間帯ではあるが、いまのところのマシンも大丈夫そう。ターボ車特に#23「Team Jatsun アルト」はその速さに各部が付いてこないということが往々にして見られたが第4戦あたりからその点は改善されてきたようだ。

■終盤

終盤は#38「デモリッションエグゼトウディ」を先頭に三つ巴の争い、95Lapを消化した#38を追うのは#23「Team Jatsun アルト」93Lap。91Lapの#91「BRP★アルトバンターボ」が3位。4位は#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」、5位#448「スピアヘッドプレオ」、ともに周回数は90Lapとなっている。各チームともあと1回もしくは2回のピットを残しており、まだまだ見かけ上の順位からは大きく変わることも予想される。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

最終盤で他クラスのコースアウトによる SC ランがあり、ピットが一時集中する局面があったが、どのチームも目立った混乱もなくテキパキと作業をこなした。最終ステイントでトップに立った#23「Team Jatsun アルト」は、前戦の計時トラブル(誤認でチェッカー)を取り返す総合優勝！

2位は2周回差で#91「BRP★アルトバンターボ」、3位も同じ周回数で#38「デモリッションエグゼトウディ」、さらに4位も同じ周回数で#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」。2位から4位は6秒7ほどの間に入る激戦だった。

5位は見事完走の#448「スピアヘッドプレオ」という最終順位。

■総評

気がつけば大混戦のバトルをするクラスとなった OP、ターボ VS NA という見方もあるが、どちらも究極にチューニング & セッティングされたレースの華。NA でタイトルを防衛した#38「デモリッションエグゼトウディ」は流石というところ。

またターボ車の章駄天具合もやはり魅力的。そんな中で、プライベートチューンとしてやってきた#448「スピアヘッドプレオ」、この最終戦では大きなトラブルも出ず、見事完走、上位との差も詰まってきており、今後への期待を抱かせる締めくりとなった。



OP クラス



ホント じゃんけん無敵ですよ(^_^)



やっと勝てました～！！



シリーズ表彰 OP クラス

